

子どもを伸ばすためには

2018/7/14 花まる学習会 高橋 大輔

「よく学び、よく遊べ」

この言葉とともに育った方も多くいらっしゃると思います。ですが、現代の子どもたちを取り巻く環境は、以前と大きく異なってきています。どんな子ども、健全に学び、鍛えられ、成長していく、そのような環境づくり、関わり方につながる大人側の心構えについて一緒に考えていきましょう。

1. はじめに～通信制高校で関わった子どもたち～

- ・ 3つの「無」
- ・ 二極化する子どもとの距離感

2. 子どもを知る

(1) 赤い箱と青い箱

- ・ 赤い箱 (4～9歳) ・好き・楽しいが原動力、自己肯定感を育む時期
忘れやすい、飽きっぽい、落ち着かない、恨みをもたない、反省しない、順番や大小にこだわる…etc
- ・ 青い箱 (11～18歳) ・愛と厳しさが大事、外の師に任せる時期
学習体力がつく、コツコツが実を結ぶ、振り返りができるようになる
親と距離を置く、外での大人との出会いに影響を受ける…etc

(2) 成長曲線

(3) 兄弟論、男女論

3. 赤い箱の時期に大切にしたいこと

(1) 実体験を伴う没頭体験

(2) 愛情の受信力

(3) 活きた学習

- ・ 「数え上げ」 数に親しむ
- ・ 「読み聞かせ」 イメージ力を育む
- ・ 「手先を使う活動」 集中力、緻密さが養われる

4. 青い箱の時期に大切にしたいこと

(1) 反復学習

- ・ 復習の仕方を身につける。「わからないまま」は、ごまかし癖の第一歩。

(2) 葛藤経験

- ・ 反抗期、思春期、ごまかし癖

(3) 外の師

- ・ 親以外の「ナナメの関係」を見つける。「外で鍛えられ、家で充電」が健全な状態。

5. 子ども達との関わり方～事例集～

- (1) 体の強さは、心の強さ
 - ・現代の半袖短パンっ子
- (2) サヨナラ ファミコン
 - ・6年生男子 D
 - ・約束を破ったその時、母がとった対応とは…
- (3) ゲームからの卒業
 - ・2年生男子 K
 - ・夏休みを境にゲーム三昧。父母の作戦会議。
- (4) 「ちゃんと」の魔力
 - ・3年生男子 Y
 - ・あまりの字の汚さに母の怒りが爆発！そこで交わした約束は？
- (5) 自信を取り戻す
 - ・5年生女子 R
 - ・母の口癖がRのごまかし癖を生み出す
- (6) 反抗期
 - ・4年生男子 H 6年生男子 M
 - ・皆が通る通過儀礼
- (7) 大人も子どもも「自分を認める時間」が必要
 - ・1年生女子 K
 - ・子どもからの「大丈夫だよ」 大人からの「ありがとう」
 - ・親子のコミュニケーションは十人十色 みんなちがってみんないい

6. おわりに～子どもが伸びるための「核」づくり～

これからの時代は、ありとあらゆるものが目まぐるしく変化していきます。自分で進むべき道を選び、自分自身納得して生きていくためには、自分の「核」が必要です。その「核」をつくり上げていくためには、「心技体」の様々な側面からアプローチしていく必要があります。

そのために一番大事で、一番難しいのは、見守ること。そして、失敗や挫折を受け止める大らかさをもつことです。ひとりでそれを体現するのは簡単なことではありません。だからこそ、時に笑い、時に泣き、皆で明日の子育てを楽しめたらいいな、と考えています。見守る子育て、見守る教育、これからも一緒に考えていきましょう。

第2回家庭教育学級 ・ 開催報告
花まる学習会 高橋大輔先生による講演会
伸びない子はいない～今の子どもを知る～

夏休みも間近の、さる7月14日(土)に、花まる学習会高橋大輔先生を講師にお招きし、第2回家庭教育学級を行いました。参加者の皆様には大変暑い中、ご出席いただきましてありがとうございました。
「子どもを伸ばすためには」というテーマで約1時間ほどの講演でしたが、実例を出しつつ、子どもが伸びる環境についてとても楽しくお話いただき、あらためて子どもとの向き合い方を考えさせられる内容でした。
ここに講演会の様子を、ご報告いたしますとともに、残念ながら今回はご出席いただけなかった方にも、これからの子育ての参考にしていただければ幸いです。



高橋大輔先生

いま、自己肯定感が低く無気力、無反応、無感動の子どもが多い。自己肯定感を高めるために子どもとどう関わっていけばいいのか。赤い箱、青い箱に例えて解説していただきました。

赤い箱(4～9歳)

・好き楽しいが原動力。自己肯定感を育む時期。
勉強に限らず、好きなものを見つけることで自信をもつことができる。

《赤い箱の時期に大切にしたいこと》

- ・実体験を伴う没頭体験(遊びや、興味のあるものを通して)
- ・愛された経験を通して、愛情受信力を高める。
- ・買い物体験等や読み聞かせ、手先を使う活動を通して生きた学習をする。
- ・学習で苦手なものを作らない。苦手は周りが作り上げていくもの。安心して間違えられる環境をつくる。

青い箱(11～18歳)

・愛と厳しさが大事、外の師に任せる時期。
学習体力が付き、コツコツが身を結ぶ。振り返りができるようになる。弱点と向き合うことができる。

《青い箱の時期に大切にしたいこと》

- ・復習の仕方を身につける。「わからないまま」はごまかし癖の第1歩。
- ・反抗期や思春期を通しての葛藤体験は、成長のチャンス。
- ・親以外の大人との「ナナメの関係」を見つける。「外で鍛えられ、家で充電」家で息抜きのできる環境をつくる。

《きょうだい論》

きょうだいは、常に愛情争奪戦。
上の子は追い詰められやすい。
下の子は上の子が気づかない小さな愛でも拾える。上の子にちょっとした特別感をもたせると愛情を感じてくれる。(手紙、下の子を除いた時間など)



《子どもの話の聞き方、男女論》

- ・男の子・ヒーロー扱いをする。気持ちを一言に込めて伝える。「すごいね。やったね。さすが」など。
- ・女の子・女の子は話すことで発散するので、あれこれ聞かずに話を聞いてあげる。

男女とも自然と次のステップへ成長する。

《その他》

- ・何事も年齢を問わずやりきることが大事。学習等忙しい時にも、時間を決めてやらせる。
- ・子どもを叱るときは、厳しく、短く、後を引かず。思い出し叱りはNG。
- ・体の強さは心の強さ。免疫力の高い子は、心が強く意志も強くなる。給田小の裸足、冬でも体操服で過ごすことはとても素晴らしい。

《会場でこんな質問がありました》

・今日のお話をうかがって、いつもだめな言葉がけや行動をとっていたと気づきました。どうすればいいですか？

高橋先生:子どもは、忘れやすくリセットされやすく常に上書きされていくので、今日からでも大丈夫。大人が自信を持って言葉や愛情を伝えることが大切です。

・子どもが、ごまかしているんじゃないかと思う時に、きちっと注意したほうがいいのか、受け流してあげるのほうがいいのか迷ってしまいます。

高橋先生:注意をする必要はありません。まずは、サラッと一言で質問してみても本当にごまかしていたのか判断する。その上でごまかしていると思ったら、「どうしてそうしたの？」など、子どもの心情を聞いてみる。

・宿題や勉強をみている時に、間違ったり問題がわからない時に子どもが不機嫌になる。自分の声かけや指導が悪かったのかなと思いつつ、なるべくほめるようにしているが、子どもとどのように接したらいいのでしょうか。

高橋先生:子どもは、大人の表情をよく見ています。表情を見て怒られるんじゃないかなあと察するときもあります。押すと引くを使い分けて、時には言わない日を作ってもいいのではないのでしょうか。“言われたいのは信頼の証”、そう自覚することが自立のきっかけになることもあるので、ほめたり引いたり変化をつけることも大事です。



《出席者の感想・アンケートより》

- ・子どもの自己肯定感は、とても大事だと思っていましたが、日々の生活の中でマイナスなことをしている事を多々自覚しました。もう少し子どもを信じたいと思います。
- ・今回のお話をこれからの子育てに活かし、よりよい子育てができたらいいなと思います。
- ・この講演で自分自身を見つめることもでき、自分を褒めてあげるという自己肯定感も高まりました。
- ・「家(家庭)が、子どもの充電する場所であってほしい」という所が一番印象に残りました。
- ・子どもとの関わりを、あらためて「愛情」を重点に接していこうと思いました。
- ・下の子に気を取られ、上の子は大丈夫だろうと寂しい思いをさせていたと感じ反省しています。
- ・上の子が成長曲線が緩やかで、早生まれだからいいと言いつつ、本人を追い立ててみたり子育て迷走中だったので、いつか追いつくと思えるようになったのが今日一番の収穫です。
- ・きょうだいの差別化とか、男女の違いなんかもお話が興味深くて面白かったです。
- ・赤い箱、青い箱の時期の具体的な様子や、してあげたらいいことを聞いて、大変勉強になりました。
- ・つい子どもにダラダラと叱ってしまうのですが、ビシッと一言で終わるよう気をつけようと思いました。

《出席者アンケート 回答者数48名》

Q1、この講演会に出席しようと思った理由は？

(回答多順、複数回答のため内訳人数除く)

- 1,講演のテーマに興味をもったから
- 2,花まる学習会に興味をもったから
- 3,役立ちそう
- 4,講師に興味をもったから
- 5,土曜だから
- 6,その他(無料、友人が通っている、勧められた、未就学児を同伴できる等)

Q2、参加してみたの満足度は？

- 1,とても満足(34名)
- 2,満足(13名)
- 3,普通(1名)

Q3、講演会で学んだことをどの程度家庭で活かせると思いますか？

- 1,今日からでも実践したい(40名)
- 2,たまには実践したい(8名)

本会開催に当たり、ご多忙な中、講師を務めてくださった高橋先生、本当にありがとうございました。また、たくさんの保護者のご協力を得て、家庭教育学級を円滑に運営することができました。文化厚生委員一同心より感謝申し上げます。次回もぜひご参加ください。

※本文は高橋氏の講演をもとに、主催者の責任の下で編集したものです。

花まる学習会および講演者が作成したものではない点、あらかじめご了承ください。